

令和3年度第2回徳島県南部地域政策総合会議 会議録

1 開催日時

令和4年3月8日（火）午後3時15分から午後4時45分

2 会場

徳島県南部総合県民局 美波庁舎 大会議室・301会議室

※WEB会議システム併用

3 出席者

(1) 政策総合会議委員

① 地域住民代表委員 15名（4名欠席）

青木委員 井上委員 大地委員 兼松委員 岸委員 小林委員 酒井委員 谷澤委員（WEB）
齋委員（WEB） 長尾委員 橋本委員 濱崎委員 平井委員 町田委員 遊亀委員（WEB）

② 県委員 1名

藤本南部総合県民局長

(2) 管内町長、町長代理 2名

影治美波町長 三浦海陽町長代理（北村課長補佐）（WEB）

4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

「徳島県南部圏域振興計画」及び「南部圏域課題解決プラン」の変更案について

(3) 意見交換

(4) 閉会

5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議委員名簿
- ・ 令和3年度第2回徳島県南部地域政策総合会議配席図
- ・ 資料1 南部圏域振興計画の令和4年度に向けた見直し（案）について
- ・ 資料2 徳島県南部圏域振興計画（変更案）
- ・ 資料3 徳島県南部圏域課題解決プラン（変更案）
- ・ 参考資料 南部総合県民局 各種メディア一覧

6 議事概要

[司会]

ただ今から、令和3年度第2回南部地域政策総合会議を開会いたします。

本日は、18名の皆様にご出席いただいております。

ご出席の皆様のご紹介につきましては、恐れ入りますが、委員名簿をご確認いただくことによりかえさせていただきます。

議事進行は、会議設置要綱第5条第2項の規定により藤本南部総合県民局長が行います。

[局長]

まず、知事出席でご案内させていただいておりましたが、本日は、急遽、公務の都合により、申し訳ございませんが、欠席させていただきます。

早速ですが議事に入りたく存じます。

本日の議題は、『徳島県南部圏域振興計画』及び『南部圏域課題解決プラン』の変更案についてでございます。それでは事務局から説明をお願いします。

[事務局]

(資料1により説明)

[局長]

ありがとうございました。ただいま説明のありました「振興計画及び課題解決プランの変更案」について、ご意見・ご質問などございますでしょうか。

[A委員]

基本戦略4の「豊かな自然と調和した地域づくり」というところで、「木質バイオマスエネルギー」としての未利用材というんですかね、それと残存木というのは、ある程度次のステップにおいての地力ということも考えながら、残存木、未利用材の資源を、地力の低下においては少し必要じゃないかなと、全部持ってきてしまうというよりも。そのように思いましたが、その辺はいかがでしょうか。

[農林水産部]

ご意見ありがとうございます。木質バイオマスなんですけど、A委員さんご存知の通り、今、林地の方には枝葉が放置されたような状態であります。それも有効利用すると。以前の第1回の委員さんのご意見の中に、谷筋の方に枝葉とかたくさん捨てられていて、下流域の排水溝とかが閉塞して災害に繋がるんでないかというご指摘がありました。

そういった点を踏まえて余りが無いように木材を利活用しようということで、今回の木質バイオマスエネルギーの利活用、これも森林保全に繋がるだろうということで、今回のテーマとしてあげさせてもらいました。具体的には那賀町の方でチップ工場の建設を検討されているようですので、これを踏まえて町内全体、南部圏域全体でそういった動きを盛り上げて対策していきたいと考えています。

[A委員]

谷筋なんかはやはり災害の起こるリスクもあるので。皆伐したときに、何十%なんかはそこに植林をすると思うのですが、その植林をしたときに枝葉も全部持っていくというのでは地力の低下に繋が

るので、枝葉も少しは残さないと、何もかも全部持って行ってバイオマスというのはちょっと違うかなと。谷筋なんかはやはり災害の起こるリスクが大きいので考えてほしいと思います。

[農林水産部]

何もかもというのではなくて、やっぱり必要なものというのは委員さんが仰られるようにあると思いますのでそれはそれとして置いておいて、腐敗して腐食して地力に蓄えていくような、そういうようなやり方をする。枝葉が全く落ちていない状態になるようなものではございませんので、その辺りは事業体にもしっかり指導して参ります。

[B委員]

私も基本戦略4の「『阿波地美栄』の取扱店舗数」ですが、2021年を8店舗としておりますけれども、11店舗まで3店舗増やすとなっておりますが、大体どの地域のどの施設かを分かれば教えていただきたいと思います。

[農林水産部]

今、ご質問のありました「阿波地美栄」の計画についてでございますが、これまでB委員には大変お世話になりまして、那賀町の方では先進的にジビエの処理加工施設を運営していただきまして、そのジビエ肉を地域でお使いいただきまして、現在では那賀町の方のみじ川温泉、それからファガスの森高城、四季美谷温泉、と那賀町を中心に4店舗ほどあるわけですが、それに加えて処理加工施設というふうなことも管内に4施設ほどございます。それが今年度阿南市の方と牟岐町の方に2つの処理加工施設が竣工する予定でして、来年度から稼働するというふうな予定と伺っております。そうした処理加工施設2つに加えて、さらにはジビエの料理を地域でご活用いただけるように商工会等の地域の方々、また市や町の方々にご尽力いただき、そうした食事を提供する施設を広めていただけるような取組みを現在進めておりましたので、そうしたことも含めて計11施設には到達するものと考えてございまして、そういった数字とさせていただきます。

[C委員]

基本戦略4のところで「『木質バイオマスエネルギー』としての未利用資源の活用及び森林の保全」というところがありますが、私の質問が少し的外れるかもしれませんが、今日今すぐのご回答というわけではなくてまた改めて資料を送っていただいてもいいのかもしれませんが、私は阿南商工会議所として出席させていただいております。阿南の方はおかげさまで、四国電力さん、電源開発さんと、エネルギー供給都市としての位置づけで非常に潤っているところもあります。ただし、今、四国電力さん、電源開発さんと、ご存知の通り石炭火力発電所ということで、非常にSDGsに関しまして、また、グリーンエネルギーに関しましてマッチしていないところがあります。ただし、いろんな方面の方のご意見をいただきながら、これからも長い目でエネルギー供給都市としての位置づけをしたいと思っております。やはりあのバイオマス発電、それから風力、ソーラー等といろいろ阿南市も考えていけないといけないところもあるんですけど、今日お集まりいただいております県南地域ということで阿南から南、那賀町さんひっくるめて、バイオマスとかソーラーとか風力等で、いろんな案件がでてきているんですけども、やはり環境の面とか地元の方の反対でなかなか実現までこぎつけないところが多々あるというふうな形でお伺いしております。私も直接お聞きしたわけではないんですけども、阿南にはご存知の通り日垂さんもあります。大手の企業さんあるんですけども、

どうしても大手さんほど厳しいとは思いますが、工場を稼働する場合でもグリーンエネルギーを使わんといかんということで、私が今からお話しするのは合ってるかどうか分かりませんが、1つの例ですけれども、日垂さんなんかでしたらアップルさんとかいろんな取引先があると思います。そこでお取引をずっと継続するためには2030年までには100%グリーンエネルギーに工場を稼働するのに変更したりしないといけないという噂を聞かさせていただいております。もっとも県をあげてグリーンエネルギーの普及につとめていただかないといけないところがあるんですけども、過去10年くらいを振り返って、県南地域でこのグリーンエネルギー、バイオマス、ソーラー、風力、潮力いろいろあると思いますけれども、その案があったんですけども環境アセス、地元の反対で話が進んでいかなかったというところの資料がありましたら、日を改めて結構ですのでいただけたら、私たち商工会議所でも有効活用していけたらと考えておりますのでまたよろしく申し上げます。

[局長]

他には特にはございませんでしょうか。

[D委員]

見直しの分で、基本戦略1の学ぼう防災教室の開催ということで、見直しの点で上げていただいているんですが、タブレットで防災教育をしていただけるということなんですが、タブレットでする教育というのはどのような教育なのか教えていただきたいと思っております。

[地域創生防災部]

このギガスクール構想で小、中、高校生に各1台ずつタブレットが配られておりまして、これと今、県の方で出前防災講座とかいうふうなものを行っておるんですけど、これ動画ですとか、あとパワーポイントで作った資料でございまして、これを今度タブレットに送信する、タブレットで見させていただいて、この「まなぼうさい教室」を実施するという形で考えております。

[D委員]

一緒に防災訓練するのか、平行してするというのでしょうか。

[地域創生防災部]

「まなぼうさい教室」で仮に40回やるとしたら大体こういうふうな座学で行うのが4分の1程度ございましてそれ以外に起震車を持ってきて地震体験を行うものがあったり、それから外でロープワークを行ったりと色々なメニューがございまして、その中の1つとしてこういったタブレットを使う「まなぼうさい教室」、防災講座ですけど、行いたいと考えております。

[局長]

よろしいでしょうか。それでは他に何かございませんでしょうか。

ありがとうございました。

それでは議事につきましてはここらで終わらして、ここからは、委員の皆様から、南部圏域の振興全般に対するご意見・ご提言をお聞きしたいと思います。まず、会場にお越しの皆様からお伺いし、続いてWEBでご参加の皆様からお伺いしたいと存じます。全員にご発言いただきたいと思っておりますので、お一人様当たり2,3分程度でお願いをできればと存じます。それでは、会場のE委員から、順番にお

聞きしてまいりたいと思います。

[E委員]

私の方から大きく分けると2点、項目としては4点のお話をさせていただきたいと思います。

まず1点目でございます。1点目は、やはり南部圏域の観光振興についてでございます。2点申し上げます。やはり一番はDMVですね。DMVを活用した観光のコンテンツの開発と推進の現状からの展望について、少し本当は時間があればお伺いしたいというのもあったんですけども、今、どうしても感染症対策等でどうしても観光の出入りが非常に厳しいといった状況におかれておりますが、やはりアフターコロナ禍を考えて、このDMVをコンテンツとして考える、これはもうたぶん、皆さん南部圏域の計画としては基本であろうかと思っておりますが、やはりもっと柔軟な対応と展望、それと合わせて、今日も私バッチをつけておりますが、やはり大阪関西万博と繋げる何かそのアプローチです。それを県南部に取り込むような方法っていうのが1つ手法として必要なんじゃないかと思っております。

もうすぐに2025年やってまいりますので、これはもう県の総合計画はじめ、挙県一致はじめ、やはり必要であろうかというふうに考えております。特に海上交通ですね、審議会でも言ったんですけども、関西万博の会場、夢洲から直接県南へ来れるような実証実験等をしていただいて、ぜひともそれとDMVをつなげる観光施策というのは非常に大事であるかと思っております。

それともう1点でございます。もう1点はやはり防災の観点でございます。やはり南部圏域における避難所、冷房施設や感染対策設備の現状と設備、前回の南部圏域の会議のときも私発言いたしました。避難所に冷房、いるかいらないかと言ったら、いるんですよ。いる。はっきり申し上げます。これは阿南防災士の会としても絶対にいります。やはりこれから暑い夏を迎えます。西日本豪雨をはじめ実際に現場に行きましたが、やっぱ暑い中耐えられませんか。異常気象と、どないぞして、やはり冷房設備を県の施設はじめ、指定避難所等に、これは各市町村の町長さんをはじめ皆さんにもお願い申し上げたいと、県有施設のみならず、必ずお願いしたいと考えております。

それと最後に、ハード面だけをお願いするんじゃなくて、災害ボランティア等のソフト面の構築というのやはり必要であろうかと考えております。もちろん県としては、たくさんの総合防災訓練をしていただいておりますが、やはりソフト面を少し柔軟に考えて、今後、感染対策を行っている中では、必要であっても県外から災害関係者を呼べないケースが多いんですね。となると自前でせなあかんですよ。となると地元で災害ボランティアを要請して、いざという時に備える災害ボランティアコーディネーターはじめ、もちろん防災士の皆さんの人材の育成が必要であろうかと考えてございまして、ぜひともそのソフト面の構築についても、最大限しっかりと力を入れてほしいなと考えております。

最後に1つだけ、実は県の施策でいいなと思っているのが、さきほどの資料1にもあったんですけども、F委員さんおるんであれですけど、やはり移住のオンラインサロンとかね、めっちゃめっちゃいいですね。これ実は僕も参加させてもらったんですけど、かめたろうさんをはじめ、非常にこう魅力がある発信、これは非常に素晴らしいなと思っておりますので、こういったコンテンツを使ったやり方。それと「みぎアゲTV」ですね。いつオファーがあるんかと思っただけなんですけど、一向に県の方からオファーがないんでもう頼みますわ。そろそろ出たいと思っただけなんです、防災に絡めてよろしくお願ひいたします。発言は以上でございます。

[局長]

ありがとうございます。是非オファーさせていただきたいと思っただけなんです、その節にはよろしくお

願います。あと、大阪関西万博で実証実験っていう話がありましたけど、去年、大阪の関空から鳴門とかアスティのところまで来て、今年県南の方までの実証実験をやってますので、2025年に向けて頑張っていきたいと思います。

それでは続きまして、G委員お願いします。

[G委員]

私からは3つぐらいあるんです。まず1つは先ほどB委員からあったようにジビエ処理施設が増加するので、飲食店も増やすってことだったんですけども、多分11店舗っていうの書いてあるんですけど、それ以上増えるんじゃないかなっていうふうに、私も処理施設のメンバーの中に入っているんですけど、11店舗以上になるんじゃないかと思ってはいるんです。そこに増やすにあたって、自分たちでやるのはもちろんなんですけども、サポート支援があった方が、やっぱり新しく取り扱ってみようという意欲が増すので、去年だったら県の方でジビエのメニューを開発する補助金とか出てたんですけども、そういったものは継続してやっぱりやっていただけた方が、新規参入者が入ってきやすいかなって思うので、そういったサポートの方をお願いしたいっていうのと、あと開業した後ですね。後のサポートも持続していくということが飲食店には必要になるので、広報のところ、右下観光局のホームページとかでも、南阿波井とかいろいろ乗せているんですけども、今度はジビエっていうところで、店内各地でやっているの、あつこの県南でジビエは増えてくるので、どんなものがあるのかっていうのをより分かりやすく、広報をしていくということが大事だと思ってるので、そこをお願いしたいと思います。

で、ホームページの方なんですけども、やっぱり県外から来るお客様が私の団体でも多いんですね。ただ、県南に来て地図が分からないので、今あのお店ごとに店の写真が並んでいて、そこをクリックすると地図が出てきて、メニューが載っているというシステムになってるんですけども、地図でパッとわかるようなページもやっぱり欲しいなっていうふうに思っていて、それは飲食だけでなく観光も含めてこの地域にはこんなものがあるっていうのを、やっぱり一目でパッと見れた方が、こういうルートで行こうかなっていうのが自分の中でイメージがしやすいので、そういったページを1つ何か作っていただけたらありがたいかなと思います。で、そこから各ページに飛ぶとかいうのを何かできないかなというふうに感じています。

あと、子育てのことなんですけども、子育て支援でゼロ歳児から使える、1万5000円のクーポンを出しているんですけども、在宅育児の応援、近年民間も含めて、行政だけでなく、民間の団体も利用できるということになっているんですけども、その手続きのところ、各市町村がやってもいいよという事業者に声をかけて、それでお互いに申請してそれが通ったら伝えるというふうになっているんですけども、そうすると私の団体だったら、県南だったらどこでも使っていいよというふうに思うんですけども、やっぱりその市町村からオファーが来ないとそこでしか使えないんですね。で、そうではなくて、やっぱり子育てというのは県南全体で今後やっていく必要、サポートしていく必要があると思うので、こういった事務的なところっていうのも少しちょっと各市町村ごとにやるっていうのではなくて、県南で、1回申請したら県南で全部使えるとか、そういった形の仕組みを何か考えていただけたらなと思います。子育てだけでなく、他のクーポン券とかそうなんですけども、やっぱりこの市町村が使えないとか、そうするとやっぱりそれだけ幅が狭くなってるので、もうちょっと広域な視点でクーポンだったりとか支援制度を伝えるように1つ全体的に見直していけたらいいなと思っています。

[局長]

ありがとうございました。続いてH委員をお願いします。

[H委員]

日頃は水産振興にご尽力いただきましてありがとうございます。資料の方を見させていただきまして、私が感じたことではありますが、述べさせていただきたいと思います。全体的に素晴らしい活動、目標ですよね、それに向かって施策を考えられているというのはとても素晴らしいと思うんですけども、一県民として、県内に報告するというのはとても素晴らしいことだと思いますけれども、県民が、皆様ここにいらっしゃる方は政策を考える素晴らしい方々なのでよくご存じだと思うんですけども、県民に広く知られていないというのはとても問題だと思いますので、県外から人を取り込むだとか、県内のアピールをするというのはとても大切ですが、一度原点に戻って、県民へのアピールも一度考えてはいかがでしょうか。漁協として、漁協の職員として1つお願いがあるんですけども、こちらの資料の中にですけど、「絆・継承・創生」という3本柱があるんですけども、今漁業は、「つながり、支え合う」とあるんですが、「守り伝える」、「育て、生み出す」というのがとても困難な状況になっています。アカデミーで人を増やすというのはとても素晴らしいと思いますけれども、例えば継承でありますと、漁業者の匠の技術を継承する人がまづいないということですね。で、どんどん漁業種類が減っていつているのが現状です。ですので、その技をデータで残すという方法を考えていただくと新しい人が入ってきてもその技をすべて継承するというのは難しいかもしれませんが、ある一定の効力はあると思いますので、そちらをお考えいただけたら嬉しいと思います。以上です。

[局長]

はい、貴重なご提案をありがとうございました。続いてC委員をお願いします。

[C委員]

県南、また阿南市内の商工業者の代表ということで、ご意見をお聞きいただきたらと思います。暦も春を迎えまして、新型コロナウイルスの感染からもうはや2年が過ぎまして、そしてたしか2月の25日に徳島県の第1号、正確に申し上げますと四国の第1号ということでありました。もうあれから2年経ったという形なんですけども、従来株からアルファ株またデルタ株からオミクロン株ということで、置き換わりがありまして、今もご存知の通り、とてもじゃないけど、商工業者も苦節を味わってるわけでございます。昨日徳島マラソンが中止ということで、今日は知事さんが見えただけのんかなと思ったりしておりましたけど、そのあたり、「なぜ中止にしたんですか」と、東京マラソンが実施できたものですから徳島マラソンも東京マラソンを見た瞬間にあ、もうこれで徳島マラソンも実施できると喜んでおったんですけど、非常に残念に考えております。改めてこのコロナウイルスとの接し方、また長期的な共存のあり方、感染症対策と経済活動と両立の必要性を学ばさせていただいております。コロナ禍に加えてOPECプラス1の減産調整また、為替も円安に振れております。ここに来てロシアとウクライナの衝突によりまして、原油また原材料費の高騰に大きく影響を受けております。中小事業者、業態転換と感染症対策に積極的に経営を行っております事業者に対して、経営指導はもちろんのこと事業資金、運転資金も含めて、県として最大限のご助力をお願いしたいと思っております。

具体的に今回は要望を2つ出させていただいております。県道大林津乃峰線、県道130号線の右折レーンの設置に関しまして、以前より阿南市とともに県道大林津乃峰線の4車線化等の拡幅工事をお願いしておりましたが、現在の通行量、また、長期的な通行量の予測もあり、実現はいたしておりませ

ん。南海トラフ巨大地震や津波に備え、避難、復旧、支援道としての機能を持ち、快適な道路交通環境の整備と、阿南市内の商工業の発展のために4車線化に先行して右折レーンの設置を加速していただけますようお願いをいたします。県下でも通学道の安全確保に関しまして、問題が生じておりますが、沿線に高校、中学校、小学校、保育園等が密に設置されております。阿南市上中町南島の三叉路より、学原町の三叉路の間の右折レーンの設置を加速させて頂き、慢性的な通勤時間帯の渋滞解消と安全安心な通学路の確保をお願いいたします。

要望の2と致しまして、阿南商工会議所の中にサービス業部会というのがあります。そこからちょっと意見を頂戴しております。給付金支援金等の支給条件の見直しを図っていただきたい。現在、給付金、また支援金等を申請する上で令和3年11月以降の売上と過去3年間の同期間同月の売上げが30%以上、また50%以上の落ち込みがある場合の条件がありますが、各部門業態店舗による落ち込みではなく、会社全体で落ち込みがあるかどうか判断基準となっております。その場合に経営努力を怠り、従業員の雇用を守らず、事業所、また店舗等を閉鎖し、我が身を守るためにだけに事業を縮小し、売上を落とした会社だけが行政の支援を受け、業態転換、また新規事業に取り組んでいる会社などが大切な雇用と地域経済を守るために努力している会社が支援の対象から外れております。各会社、また事業所へのヒアリングを行い、前向き投資と努力を行いながら、やむなく、コロナ禍で多大な赤字を計上している中小企業への積極的な支援をお願いいたします。以上でございます。

[局長]

はい、分かりました。ありがとうございました。それでは続いてI委員お願いします。

[I委員]

僕は初めての参加というところで、花火のことしかあまり知識がなくて、右下全体の視野を持っていないというところでなんですが、花火のことで少しだけお伝えしたいと思います。2019年、他のメンバーと一緒に、「にし阿波花火」というものを開催しまして、地域の市長にご協力いただきまして、5万人を集めるイベントとして大会を実施しました。日本一、第19回内閣総理大臣賞を受賞している花火屋さんを呼べたり、非常に大きな中四国最大級という形での有料化をメインとした花火大会を実施できて、非常に大きな効果があったというところがありましたが、その反面交通渋滞になりまして、マナーの悪い観客もいたという感じで、そういうところの学びも非常に多かったというところがあります。しかしながら、コロナ禍において、通常の花火大会というのは集客効果がありますが、なかなか開催ができずに、花火大会実施が難しい状況になっています。その中で、今、実績としてあげるのは、例えばホテルの花火です。鳴門の花火でいいますと、今、週に1回ほど花火の打ち上げを行って、もう1年半ほど継続して行っています。花火をあげるときは宿泊のアピール、またその方が良かったということで、別の方を連れてきていただけます。ということで、もうそのサイクルが周り始めてるということで、継続して花火をあげていただいているということが実績としてあげられます。また、右下観光局さんですね、今、モニターツアーや体験という形で実施していることで、花火を模擬的にイラストを作りまして、その日のうちに花火を打ち上げるというプランを実施していたりと、あとはそのZoomを活用して、事前に修学旅行に来ていただける方に対して、クラスに対して授業を行って曲を決める、そして来ていただいた時にその曲に合わせて花火を披露する。そういう形で、今、突喰中学校や海部中学校と実証実験的に行っているところがあります。おそらく花火というのは従来祭りで打ち上げるというのが主体であったと思いますが、業態に合わせて様々な花火が展開できると、経済的に考えても、非常に花火はナイトコンテンツであり、宿泊飲食ともに効果が大きいものである

と、すごくデータとしても出ているということがあるんです。DMVも何か花火でなくともいいとは思いますが、組み合わせることによってよりDMVの魅力を発信できる。また、花火というのが思い出や教育、学びというものに繋げていけるような、柔らかな形での提供っていうのが弊社が心がけているところがありますので、ぜひご利用いただけたらと思います。私からは以上です。

[局長]

はい、どうもありがとうございました。それではF委員お願いします。

[F委員]

県南部、それと美波町の移住のアドバイザーもさせていただいてますので、移住の方からのお話をさせていただきたいと思います。この2年間、東京での大きなフェアとかが今年度はなんと2回しかなくて、南部圏域におきましては、大きなこれは痛手です。っていうのは、やはり南部の方ではやっぱり呼び込みに行かないと。移住者の方の声を聞きながら呼ぶっていうことが非常に大事なことです。それで、おかげさまで県内では南部は先進地区でありまして、皆さんがだいぶ昔から頑張っていたっていうのがありまして、それで今年度移住の数値が発表されると思うんですけども、県南地区がちょっと落ち込んだふうに見えるのは、実は皆さん都会の方が今移住したいんですよ。でも、私はこういう風と呼んでるんですけども、「勝手に移住」と、勝手に自分で移住相談がなく来られてる方がすごく多くて、その場合やはり中間都市へ行かれるんですね。で、南部で言いますと、中間都市は阿南市です。で、阿南市には不動産屋さんもありますし、自分で調べて、それでふわっとこう移住してくれるっていう状態があるので強いんですけども、後の4町に関しましては、やはり生の声をお聞きして「徳島どんなんですか」って聞かれた時に、お話できるような状態に持っていかないと、それはなかなかのことなんです。ここで話したいのが、やっぱりオンラインが、もっともっと各市町村の方、それから南部県民局の方も、今日の一番初めに比べましたら、うんとこれ良くなってるんですけども、これではグレードがものすごい低いんですよ。担当者の力量にかかってくるんですよ。これってオンラインをどう駆使していったり、生でお話がどんだけオンラインでも違和感なくできるかっていう力をつけていただかないと、今後そのよその地域にはついていけない。その移住者の方を見極めるっていう力をつけていただかないと、画面上でお話が十分できるようにしていただかないと、パワポとか、それから、資料とかを画像で見せるんじゃなくて、できる限り喋りでやっていただかないといけないということが必要だと思っていますので、そういったことも県の方も含めて、もっともっとレベルを上げていっていただきたいと思います。遅れがないようにしていただきたいと思います。それで今、県南地区がちょっと停滞のようには見えますが実は十分頑張ってますので、空き家バンクのこともやれてますので、実は空き家が特に美波町なんかはもう住める空き家がないんですよ。で、手を入れないといけない空き家がほとんどになっていますので、それで、もう今後、何より早いこと、今度は空き地の方も目をつけられて、どこが持ち主、どういった方が来た時に、空き地を新築に持っていけるかっていうことを頭に入れて、今後はもう空き家バンクから空き地バンクも2つ含めてやっていただくようにしていただかないと、間に合わなくなるんじゃないかと思っています。よろしく願いいたします。

[局長]

はい、ありがとうございました。聞き取りにくいところもあり申し訳ございませんでした。はい、それでは続きましてJ委員お願いします。

[J 委員]

私はこれ全体的に素晴らしい計画の見直しだと思います。よく隔々までやってくれたなと思います。教育と訓練が一体となった啓発はなかなかコロナで難しいんじゃないかと。学校側の方が冷静で、この「まなぼうさい教室」も、学校はなかなかコロナで大変やと思うので、私たちもお手伝いしたいと思うので、協力できたら良いなと思っています。よろしくお願いします。自主防災会だけでなく、今、私たちの地域は高齢者が50%なので、これで訓練をやれと言われるとなかなか難しいんですよ。これで今回いろんな人と協力して各1軒ずつ高齢者を回って、調査をしていますと、その地域は津波が何メートルとか、何分後に来るとかほとんどの人が高齢者で知らないで、それを伝えていくことが私たちの役目だと思っています。こういう高齢者を助けるのは、自主防災だけでなく、いろんな組織とコラボしながらやっていきたいと思っています。よろしくお願いします。以上です。

[局長]

はい、どうもありがとうございました。それではK委員をお願いします。

[K 委員]

私もF委員さんと同じで「あったかいよう」で移住を担当しておりまして、さきほどF委員さんがほぼ言いたいことを全部言ってくれたので、そんなに言うことないんですけど、同じで、家がないんです。それで今、コロナ禍で海陽町は、移住したいっていう方だったり、リモートでお仕事ができるようになったので、2拠点生活をしたという方が以前よりは増えていると思います。ただ、F委員さんが仰ったみたいに住む家が、すぐに住める家っていうのが、空き家バンク、海陽町にあります、ないです。ある程度のお金を入れて入るとい感じなんです。だから、その辺のお金の問題だけじゃなくて、地元の人々の心の問題とかもあると思うんですけども、そういうのをなんかこう上手く貸してもいいよ、みたいな感じに持って行ってくれるような何か施策があるんだったら、全国的なその取り組みが私はちょっと分からないですけど、あるのであれば是非取り入れていただけたらなと思います。

あとはもう1つ海部高校の方で、美術の講師をさせていただいている関係で、フラワーパークプロジェクトとかも関わらせていただいたんですけども、県南って何がいかって言ったら、やっぱり自然が素晴らしく、いいなっていうのがあると思うんですけど、とにかく県外とか町外にみんな出て行ってしまいうんです。高校生はもちろん、大学に進学するってなったら大学もないので当然なんですけど、そういう子供たちがあのいずれ帰ってきてくれる、帰ってきたいなって思えるようなこの自然の素晴らしさとか、県南の魅力っていうのを、小さいうちに知ってもらいたいというのが前から考えてることです。なので海の自然環境と一緒にボランティアでビーチクリーンしたり、できることからやってるんですけども、もちろん県の方々も同じ気持ちやとは思いますが、それが一番大事なんじゃないかなって思っています。以上です。

[局長]

はい、ありがとうございました。それでは、今日はコロナ対策もありまして、お越し頂いた委員のうち4人の方には別室からご参加ということで誠に申し訳ございませんでした。それでは別室からウェブで参加いただいていますA委員からお願いします。

[A 委員]

前年度に山口の標識がちょっと見えにくいということでお話ししたところ、早速取り組んで頂いたようです。ありがとうございます。見やすくなりました。それと中山での舗装、全部完成ではないんですが、一部完成して、ちょっとコメリのところの前後で事故が多くてですね。で、最近でも死亡事故がありました。なので、やはりあの辺のところの表示って言うんですかね、標識とかいうのをやはりもっともっと見やすく、そして皆さんが注意してスピードダウンができるように、できる限りのいい方法で行ってほしいと思っております。

それと林業ですが、やっぱり徳島県の林業、私も昨年度の暮れに、環境省とか農水省関係の方から視察を受けました。私のところに来るなんてちょっとびっくりなんですけれども、良い経験をさせていただきました。その中の質問の中で、徳島県ではどういう、那賀町ではどういうふうなことを林業で取り組んでいるかということで、ビジネスセンター等ありますので、どういうふうなんでしょうかねって、質問された時には高性能林業機械、皆伐の方に使っておりますねっていうお返事をさせていただきました。それで、そういうふうなんで、やっぱり地球全体の環境を考える時に、やはりもうちょっとやはり皆伐、皆伐は九州でもものすごく大変なことになってますし、災害時においても大変なリスクもありますし、色んなところで大きな災害が起きておりますので、やはりもう少し考えてくださった方がいいんじゃないかなって。

でも、徳島県はそれがあろうとなかろうと、こういう方針は変わりませんか、ということもちょっとお伺いしたいのが1点。

それと、林業の定着率っていうので、若い人たちも皆さん努力をされているんですけども、聞こえてくるところによると定着率が悪いというのが正直なところですね。そこでどこに原因があって、どのようにすれば改善ができると早くこれしないと、やはりせっかく若い人達が巣立ったにもかかわらず、なかなかそういう定着率のところには繋がらないというのはどういうふうなことなんでしょうかねと、改善策があればお示しいただきたい。

それと、あの3点目にスマート林業についてお伺いいたします。徳島林業ですかね。そのところにスマート林業のことが掲載されておましてですね。私、個人的にですが、これたくさんお金がかかりますよねっていうのが正直なところでした。で、そういう色んなドローンとかいろんなことを使っていますよっていう、そういうふうなことがありましたので、どれくらいいったいお金がかかるんだろう、というふうなこともちょっと知りたいなと思います。多額のお金をかけてやるのもあれですが、まあそれもあまりかけないでも同じ効果が出るような工夫もあるんじゃないかなと私は思っておりますので、その辺のところも教えて欲しいと思います。以上です。

[局長]

はい、どうもありがとうございました。それではL委員お願いできますでしょうか。

[L委員]

先般、命の道という宍喰町で地権者とお話ができて、海部野根道路が宍喰の方で日の目を見ることになりました。知事さんと地元の町長さんと地権者の代表ということで、調印のような形が新聞テレビで報道されておりました。本当に喜ばしいことでございます。私も宍喰に住んでおりますので、本当に早く命の道ができましたら東南海がいつ来るかは分からないので、そういうことで本当に嬉しく感謝するような次第でございます。

また、それにひきかえまして、徳島までの道が、日和佐から道路はできておりますけれども、それ以降がなかなか着工の見通しがついておらないようでございますので、出来る限りは道路の方、早く、

色々と予算の関係もございましょうけれども、是非徳島まで1時間余りで行けるようにということを切にお願い申し上げます。

そして、大変県から国から色々お世話になっております「きゅうりタウン」ではございますけど、ここ2年半ぐらいコロナで本当に塾生も受け入れすることができておりません。今まで24名の生徒、そしてまた18名が就農しておりますけれども、その以後は本当に増えておらないのが今の現状でございます。そして、また支援センターにも色々ご無理お世話になっておりますけれども、早くこのコロナが収束を致しましたら、是非また都会へ行って塾生に来ていただくよう、そして今も度々ご相談がございましてけれども、きゅうりのことで聞きたいということで、電話はありますけれどもコロナということで、もう少し待ってください、ということで、そういうふうなことをしておるのが今の現状でございます。コロナがもう少し下火になりましたら、もう少し我々といたしましても活動をしていきたいと思っておりますので、県や支援センターには、今後ともよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

[局長]

はい、どうもありがとうございます。それでは続いてB委員さんお願いいたします。

[B委員]

私、山奥に住むがゆえに道路の要望ばかりに今回もなりますけれども、どうかよろしくお願いいたします。私たち、木沢は地元で、土砂排出事業に伴い、大型のダンプカーがたくさん多くなるんですね。路面の痛みが多く見られるようになっております。順次改善をお願いを致したいと思っております。

それともう一点は、節約をしているのではないかと思うのですが、トンネル内の電気がちょっと暗くなったような気がしてしょうがないんですけど、歳のせいかわからんけどね。なんかちょっとこれ暗くなってきたように思います。もうちょっと明るくできればしてほしいなとこの2点でございます。よろしくお願いいたします。

[局長]

はい、どうもありがとうございます。それでは続いてD委員さんお願いいたします。

[D委員]

まずは、無堤防地区で台風のときには困ってございました、加茂町のところの堤防がこの春に完成するというので、非常にご尽力をいただきましてありがとうございます。工事のときに、加茂宮ノ前遺跡というあのすごい遺跡が発掘されて、そのことにつきましても、国交省さんが看板を設置していただけるということで地元住民も心待ちにしております。私的にちょっと案がございまして、ただ看板だけだったら普通の散歩コースとかで終わってしまうので、その遺跡というのが朱、赤をこう基調とした遺跡ということなので、遊具、赤い遊具とかを置いて、小さい子どもにもここは歴史の町であるというようなのをPRすると、地元の人がずっと道とかも好んで使えるようになるのかなというふうに期待をしておりますので、私の意見ですがよろしく申し上げます。

それと続いて、新型コロナウイルスのことなんです。いろんな会とかのお世話役というか、運営する側にもいつもおるんですけども、企画をしても企画をしても1週間ぐらい前に中止になってしまうのがほとんどで、もうなんか心が折れてしまっているというか、企画するのがしんどいなってようなのが本音ですので、社会を挙げて、新生活様式をみんなが意識して、やめるのではなくて何かこう

できる方法っていうのを社会全体で考えるような空気づくりが今一番必要でないかというのを感じております。

それと県南の観光なんですけども、コロナで観光の形も変わっておりまして、このたび、四国の右下観光局さんが非常に色々な団体とタッグを組んでいただいて、いろんな試みをしてきております。この2月の11日に、ガストロノミーウォーキングということで、全国から募集した人と阿南の名所を歩くというような企画もございまして、私は阿南商工会女性部なんですけども、久しぶりにみんなで色々な会に出れるなと思っとったんですが、やはりコロナでできないのはもう仕方がないのですが、全体的な空気のできるような方法ができればいいなと思いました。で、観光もコロナの中でもできるような観光を何かこう作っていかないとこれからはダメだなと思いました。

県南は自然が豊富なので、自然に関する観光を考えていくとかいう感じで阿南に西部公園というのがあるんですけども、西日本一長い滑り台っていうことで無料だし、外ということで、もう車が今最近すごく止まってます。ですから県南マップなどで自然から取ったような名称を探り出して発信していくようなことも必要ではないかと思えます。

それから、陸上自衛隊が県内にございます。ちょうどこの春5月ぐらいに10周年を迎えます。で、私ちょうど自衛隊友の会っていうのに所属しておりまして、10周年にちなんで桜を10本を植えさせていただいたんです。桜はあそこ風が強いので、ちょっとお金のかかった桜を植えないと枯れるということで、色々な企業さんをお願いしましたところ、固有名詞を出していいんでしょうか、日亜化学さんがそれでは全国1桜のきれいな駐屯地にしようじゃないかということで、また15本植え足して向こう3年ぐらい名所になるような桜を植えていただけるということは今取り組んでおります。そしたら日頃から、遠足で自衛隊に見学に行ったりとかいう形で日頃からもコロナに打ち勝つような観光名所を作っていたらいいと思います。そのようにコロナに打ち勝つ何かっていうのを県全体で、国じゃなく、市、町身近なところで考えていく必要があるように思いました。

それと、もう1つ地球温暖化防止についてなんですけども、阿南商工会女性部でコロナの中でも何かできることはないかということで、緑のカーテンプロジェクトっていうのを昨年開催しまして、各学校にですね、希望のあった阿南市の学校にゴーヤキットを、栽培キットを配布致しました。それでたくさん学校から希望がありまして、コロナの中でもできるということで、夏にはフォトコンテストというのをしまして、優勝上位3校を阿南広報に載せたりしましたら、非常に意識が高まったので、今、県が冬休みに書道とポスターなんかで地球温暖化防止に対して募集をしてくれているんです。それで、書道なんかだったら、「空気」とか「地球温暖化」とか考えて出しているんです。すごくいい事業と思うんですが、ちょうど冬休みで期間が短いのと、その貼り出しが県庁の1階かどこかであろうかと思うんですけど、すごい良い事業なので、それを阿南市の人が阿南市役所に貼り出しするとか、牟岐町だったら牟岐町役場に貼り出すとかもっと賞の数を広げて、もう皆が出すようにせつかく良い事業なので広げたらどうかと思いました。

そして最後になりますけども、私の地元の持井の工事も、道ですね、道の件です。工事も非常に力を入れていただいて、那賀町に抜ける、黒河バイパスにかけての道も引き続きすごくご尽力いただいておりますので、どうぞよろしく願いいたします。以上です。

[局長]

それでは、本日 ウェブの方で3人にご参加いただいておりますので、ウェブの方にもお願いしたいと思えます。それではまずM委員からお願いできますでしょうか。

[M委員]

私は福岡生まれでして、福岡、大阪と働いてきて、3年前に結婚で那賀町に来ました。今は広告制作と広告代理業を夫と2人で会社をやっています。徳島に来て驚くことが多々あるんですけども、まずこうしてただの主婦が会議に行政の会議に参加させていただけることがまずすごいなと思っています。1年間関わらせていただいて形だけなのかなと感じることもあったんですけども、何もかかわらないよりもずっと身近に行政を感じることでできて、感謝しています。

2つほどあるんですけども、3週間前に子どもを産みまして、今日はウェブ参加させていただいてるんですけども。この子の同級生が小学校はあと2人らしくて、全員で3人のクラスになるそうです。そういう中で、移住の大切さを自分ごととして危機感を持って私は今感じております。配られてます資料1に写っているオンラインサロンのこういうポーズをしているのはうちの夫なんですけども、このオンラインランは夫の人气がなかったからかもしれませんけど、視聴者数は10とか20とかで終わってしまっていました。このご時世はSNSなら広告費がかからないということでSNSに行きがちなんですけども、この時もFacebookしか配信面は用意されてなくてSNS頼りになってたんですけども、やっぱり広告費をかけないと時間だけが過ぎて人がいなくなってしまうので、ちょっと私も広告会社だから調べたんですけど。例えば梅田のホームに、大阪の梅田駅の方に12本デジタルサイネージが用意されてるんですが、そこの1ヶ月の広告掲載費が50万円で済むようです。また、金融関係の会社が集まっている大阪の北浜という場所があるんですけども、北浜であれば同じように地下鉄のホームに出して月間8万円で済むようです。意外と安いのではないかなと思います。なので、オンラインサロンでやったり、このオンラインでの移住の魅力発信を本当に広告費をかけて都市に向けて特に大阪に向けてやっていただけたら良いのではないかなと思います。

で、最後になんですけど、那賀町には小児科と耳鼻科が今ない状態で、子供が風邪をひいたら毎回車で往復2時間かけて通っていくような形です。なので、小児科と耳鼻科が那賀町にもしあればこれから子どもが3人の中で難しいかもしれないんですけど、小児科があればいいなと思っています。以上です。

[局長]

はい、どうもありがとうございました。続きまして、N委員お願いできますか。

[N委員]

事前にいただきました計画書にも記載しています健康寿命の延伸でありますとか、スポーツツーリズムによる消費拡大など、スポーツや健康づくりを単一市町村ではなくて、広域、圏域によって取り組む計画っていうのがなされてるんですけども、実際、海陽あいあいクラブでも、となり町の牟岐町でスポーツ協会とか教育委員会と連携して運動教室なんかを不定期ですけど開催しております。

その結果、隣の街からラブ会員になって毎週通ってくださってる方もいらっしゃいます。また別の視点からは、中学校の運動部活も単一中学校で部員が揃わず、バレー部では宍喰中、海陽中、由岐中とか。あと野球部では宍喰中、海陽中、牟岐中といったような合同チームを編成しなければ試合には出れないというのが今の現状なんですね。これは県南ではなくて、全国でも言えるのかもしれないんですけども、少子、超高齢、そして過疎化が進んでいます。ますます厳しい状況となっていると考えますので、こういったことから近隣の市町村が連携して一丸となってスポーツ推進っていうものを柱とした施策を今すぐにでも検討していただいて、こういうところにも盛り込んでいただければ

と提案させていただきます。

あと2つあるんですけども、やっぱり町民のみんなの本当に関心のDMVですね。走っているたびにDMVを見かけたらみんな覗き込んでどれぐらい乗ってるのかなって、すごい関心が高くて気になるんですけども、先月にはですね。町民のみんなにアンケート調査があったりして色々な意見が多分あったと思うんですけども、なんとかしなくてはならないっていう思い、県民の方もそうだと思うんですけど、町民のみんなもありますので、本当に真剣にですね。今後の展望なんか、みんな個々には考えてるんですけども、どういった展望があるのか、っていうのも聞かせていただきたいな、気になるなっていうのがまず1点です。

もう1点なんですけれども、私は運動指導を仕事にしていますので、やっぱり健康のことがすごい気になるんですが、スマホでここのちっちゃいところに「テクとく」っていうアプリがあって中を開くと、こんな感じでちょっと見にくいんですけど。これは一体何かと言いますと、徳島県民の皆さんのために、健康をサポートするためにできた素晴らしいアプリなんですけれども、実際、この「テクとく」っていうアプリ、ここにいらっしゃる徳島の皆さんどれぐらいスマホに入ってるのかなってすごい気になるんですよ。これは持つだけで歩数が加算されて、健康診断を記録すると、またポイントも加算されてポイントがたくさん貯まっていて、それが貯まると、商品に応募できたりするようなすごく面白いアプリなんですけど、徳島県は皆さんご存知の通り、糖尿病のワーストワンでこれの脱却のためにこのアプリができたんですけども、実際もう数年経つんですけども、これ登録者とかランキングが出るんですけど、すごい少ない数なんです。なので、こういうの活用して自治体対抗であるとか、ちょっと考えてるのは、私は総合型クラブ対抗とか月間で歩数のランキングなんかしたらすごい面白いイベントができるんじゃないかなと思うんです。で、この中でみんなと一緒にレッスンできないとか、みんなで教室できない、運動できないっていうので、こういったアプリ、ツールを使って健康運動の啓発するっていうのがすごい面白いと思うので、ぜひこういった4月からまたポイントが1から始まりますので、始める方も今がチャンスですし、そういうのはちょっと活用して県の方ももう少しアピールして、使っていただけるような何か、広告を何かしていただければな、アピールをガンガンしていただければなと思います。是非あの皆さんまだダウンロードしてない方がいらっしゃったら是非していただきたいなと思うんです。以上です。

[局長]

ありがとうございました。一応私はダウンロードしております。それでは最後になりましたが、〇委員お願いいたします。

[〇委員]

私、県南に集積しておりますサテライトオフィスの企業の社員、そして美波町の住民です。28歳の若者でUターンしてきたものなんですけど、その目線でお話できればと思います。私からお伝えさせていただきたいのも本当1点です。四国の右下に集積するサテライトオフィス企業が活躍できる環境を増やしてほしいと。今サテライトオフィス企業とお伝えさせていただいたんですけど、実際は移住者でも地元民でもいいので、まちづくりに取り組むとか、新しいことに取り組む、挑戦しようとする人、そういう人をとにかく支援していただきたいというのが一番の思いです。実際のところ人口減少を止めるというのは無理だと思います。で、人が減っている状況で、じゃあ今の生活を維持する。もしくはもっとより良いものにしていくためには、今まで以上に1人1人が果たす役割を増やす。もしくはITやIoTを活用して効率を良くする。このどちらかが求められるのではないかなと、両方が求め

られると考えてます。

役割を増やす活動量を増やすっていう点で言うと、いきなり今までそんなに活動をしてなかった、街づくりに関わってなかった人にちょっと新しい挑戦、どんどんしてよって言っても難しいと思うので、少なくとも今積極的に新しいことを挑戦しようとして新しい事業立ち上げたい、ボランティアで何か始めたい、まちづくりに関わりたい、そういった人を積極的に支援していただきたいと考えてます。各地域ごとに、もちろんチャレンジを支援する助成金だったり、なんかも準備してるよって仰られるかもしれないんですけど、じゃそれどんだけ地域の人に伝えようとしてるのかというところで、広報誌に入れました、ホームページに載せました、というところがゴールではなくてですね。あくまでチャレンジの支援だったら、その事業を使ってチャレンジする人が増えてようやく意味があることだと思うので、きちんとですね、施策としてする部分においても、それを活用していただけるように、町の人に伝えるっていうところまで実施していただければなと思います。

そして、ITやIoTを活用して効率を良くするっていう点で言うと、こんだけ企業が外から集まってきた、また移住者も含めてこの町で新しい技術や取り組みをしたいと思ってる人がいるので、そういった人たちをどんどん活用していって、そういった本当に効率よくしていくっていうところも意識して活動していただければなというふうに思います。私からは以上となります。

[局長]

はい、どうもありがとうございました。それでは委員の皆様からはご意見頂きましたけれども、本日は管内自治体からもお忙しい中、ご出席を賜っておりますので、ご発言をお願いしたいと思います。それではまず影治美波町長様からお願いします。

[影治 美波町長]

良い意見を頂いて私もとても参考になっています。今日、1人ということですので、ちょっと寂しいですけれども、この会において私がちょっと感じたことをお話しさせていただけたらというふうに思います。

ひとつは最近この県南地域だけでなく徳島県も含めてですけども、課題が非常に山積しているっていうふうに言葉でよく言われます。で、そんな中で私が美波町を中心にですけども、課題を3つだけあげるとしたら、自分は何になるのかなっていうふうなことを考えることがあります。

1つは日本全体に関わりますけれども、人口減少、さきほどもありましたけど、人口減少、少子化、高齢化っていうのは、大きな課題の1つではないかというふうに思っております。

2つ目は地場産業の元気のなさっていうんですかね、衰退っていう言葉を使いますが、そのようにも感じております。それはやっぱり漁業にしても農業にしても林業にしてもそれに携わる人が非常に高齢化していて、後継者という、跡継ぎもなかなかいないというような現状を見ますと、取れる産物の商品価値、価格の低迷であったり、その量も低迷してるということで、非常に苦勞されて、私ども行政としてどのようにすればいいかっていうことを常に考えるんですけども、関係者の皆様方とお話をする中でもなかなかいいと言いますか、すぐに良くなるような提案、事業計画なんかが出てなくて、非常に苦勞をしているっていうことで2つ目はそれを上げさせていただきました。

で、3つ目は、この1市4町の中では那賀町さんは海に面してないっていうところで、津波の影響はないかもしれませんが、南海トラフの地震、津波に対してその切迫度が増してきているということで、言われているのはこれから30年以内に70から80%の確率、そして40年以内には90%というふうになっていきます。

東北の東日本大震災を受けた時に、あの沿岸部の確率っていうのはもう95%超えてたというようなこともありますけれども、私たちの地域もやがて、そのような確率が出てくるようになってくると思っています。それで、いつ来てっていうような言い方をしてますけれども、なかなかハード整備についてもソフトについても一朝一夕にはいかないところがありますので、やはり地道に毎日少しずつ進むっていうようなことが大事なというふうに考えているところでございます。そういった3つ上げさせていただいた中で、この県南の振興計画に落とし込んだ時に、どのようなことをやっていくかっていうようなのは、もう綺麗に書いていただいております。その中で私も少し思うのはやはり人がするものですので、長期的に物事は見なければいけないっていうふうになりますけれども、やはりこの節目、節目と言いますか、そんなところに目標点、小さな目標、旗でもいいですので、そういったことがあることが1つの推進力にもなっていくんではないかって思っています。先ほどちょうどお話がありましたけれども、今、2022年で、2025年には大阪・関西万博が開かれるのが決定しております。そんな中で、知事も言われておりましたけれども、徳島県が前回の大阪万博と違うところは、積極的にいわゆる主催者側に入っているということで、大阪はあくまでもゲートウェイであって、徳島がまるごとパビリオンであると。そういった視点を持ちながら、やっていただいているんですけれども、多くの住民の方々にそういったことを知らしめる、ちょっとおごった言い方になるかもしれませんが、そういったPRをやっていくということも大事なのではないかとこのように思っています。

次の目標年はSDGsの目標年の2030年でありますから8年っていうことでそれほど長くありません。2050年がカーボンニュートラルって言われてますので、これは世界の要請っていうふうに、私は捉えております。ただこういったSDGsとか、カーボンニュートラルをしっかりと自治体が取り組むことっていうのは、今ふるさと納税とか企業版ふるさと納税ということで我々が力を入れている見本でありますけれども企業様から共感を得るっていうことも、そういったところでできていくんじゃないかっていうことを思うと、こういったものが底辺と言いますか、土台になって、その上にいろんな施策が柱を立てていけるというように思います。そういったイメージをみんなと一緒にような方向を向くように、これは私の考えなので、皆様の意見を聞いていただいて、そういったものをイメージして、この県南に住むお一人お一人が、そういう思いであったり、県南をこのようにしていこうというようなことをしていく、そういったことも大事でないかなというふうに思っております。

最後に、委員さんからも意見が出たところでもありますけれども、高速道路のネットワークっていうのは何においても大切かなというふうに思っております。そんな中でなかなか進捗率が低いんですけども今月一部開通になりますし、徳島から県南に向けてできるだけ早い時期に開通ができるような、そういった取り組みを、1人徳島県さんだけの問題ではなくて、国土交通省さんであったり、我々みんなの熱意っていうのが大事になろうかなと思います。コロナ禍であってもしっかりやっていただき、そういったことによって経済、それから「命の道」って言われるように命と暮らしであったり、県南は特にお話にあるように観光誘客でしっかりやっていこうという方針ですから、そういったお客様を迎える中でも高速道路のネットワークが1日でも早くできることはほんとに大きな意味があります。また、定住っていうことを考えたときに、海部郡で自然の良いところで住んで、企業さんがある阿南市さんであったり、徳島まで高速道路があると1時間足らずで行けるとなると、ほんとに通勤圏でありますので、そういった意味でもインフラが整備されることで人口流出が抑えられて、地域の活力につながっていくんでないかと感じております。雑駁でしたけど意見ということでさせていただきたいと思っております。

[局長]

はい、影治美波町長様どうもありがとうございました。それでは海陽町町長の代理の方もWEBで参加いただけてますけど、何かございましたら。

[海陽町長（代理）]

町長が出席させていただくはずですけど、議会が開催されておりますので、代わりに出席をさせていただきました。今日は色々貴重なご意見を頂戴いたしまして、また今後街づくりの参考にさせていただきたいというふうに思っております。

それと、この場をお借りいたしまして、N委員からございましたDMV運行状況等につきまして、こちらには速報になりますけども把握している範囲でちょっとお答えできればなというふうに思います。

まず、DMVの利用状況、12月25日に開通いたしまして、12月の利用状況は、乗車員が2,000人ですね。1月の利用状況が4,000人ということで、人数といたしましては、コロナ前の人数と比較して、人数はあまり変わらないんですけども、運賃収入の方は5倍か4倍というような状況になっております。

それともう1点、阿波海南文化村の利用状況ということでございますけれども、博物館につきましては、令和元年の同じ時期と比較いたしまして1.3倍ぐらい利用者の増加です。それと工芸館につきましては1.8倍ということになっております。あと新しく三幸館の方で、お土産物とか飲食のサービスを開始しておりますが、開通前と比べまして、2倍程度の売上増加というふうに伺っておりますので、あのちょっと今アップできる範囲の情報ということでご報告させていただきます。以上です。

[局長]

はい、どうもありがとうございました。それでは皆様、本日は長時間にわたりまして、貴重なご意見を賜りまして誠にありがとうございました。皆様の日頃の活動とか、実践に基づいた具体的ないろんな話が聞くことができまして、我々としてもこれからの取組みの参考にさせていただきます。ここで飯泉知事がいけば綺麗にまとめができるんでしょうけど、ちょっと私にはそこまでできないのですが、1点だけ、関心があったのが、やっぱりいろいろ県外の人とかに知らせるのも大事だけれど、やっぱり地元の人がまず地元のことを知ってというのが大事じゃないのかなっていうのを皆さんのご意見を聞いてて思いまして、私もこの4月からこちらに来て仕事してますので、やっぱり知らなかったことも多いですし、まだまだ知らないことも地元のことで多いので、まずはやっぱり地元の人が地元のことを知って、地元を誇りを持って周りのみんなに伝えていくというのが大事なことかなと感じております。県民局としても来年度、シビックプライドの醸成というような形で、地元の人に地元のことを知ってもらうというような取組みを力を入れて参りたいと考えていますので、皆様のご協力をよろしくお願いしたいと思います。

それでは、本日、皆様からのいろんなご意見、ご質問いただきまして、本来ならここでお答えをさせてもらうべきところですけども、時間の都合もありますので、県の考え方につきましては、後日、文書の方でまとめてお送りをさせていただきたいと思っております。また、合わせまして、振興計画及び課題解決プランにつきましても、近日中に作成をいたしまして、委員の皆様にお送りをさせていただきたいと思っております。

最後になりますけれども、振興計画及び課題解決プランはもとよりですが、今後の南部圏域の振興につきましては、本日頂きました皆様のご意見、ご提言をしっかりと踏まえまして、進めさせていただきたいと思っておりますので、引き続きのご指導をよろしくお願いしたいと思います。

それでは以上を持ちまして、令和3年度第2回徳島県南部地域政策総合会議を閉会いたします。本日

は どうも あり が とう ご ざ い ま し た 。

(閉会)